〔東京家政大学研究紀要　第 62 集（2），2022，pp. 073 ～ 078〕

人的・物的資源をもつ大学に望む子育て支援
-保護者の自由記述の分析-

藤田　藍津子[†1]，玄番　千恵巳[†1]，今留　忍[†1]，田中　恵美子[†2]

Desired childcare support of a university with human and material resources
-Analysis of guardians' free descriptions-

（令和 3 年 12 月 4 日査読受理）

Fujita, Atsuko[†1]　Genba,Chiemi[†1]　Imatome, Shinobu[†1]　Tanaka, Emiko[†2]

(Accepted for publication 4 December,2021)

要約

本研究の目的は，保護者の自由記述の分析から人的・物的資源を持つ A 大学に望む子育て支援を明らかにする．保健師，助産師，看護師，理学療法士，保育士等を養成する A 大学に隣接する B 市，C 市の保育所，児童館，子育て支援センターを利用する保護者に質問紙調査を行い，334 部の自由記述から，テキストマイニングソフトを用いて子育て支援に関するキーワードを抽出した．次に，感性分析を行い，ポジティブとネガティブの感性を集計した．結果、「**教育的な学びを得られる場所**があると良い」「A 大学の**産後ケアを利用**したいので情報をもっと発信してほしい」「**相談できる場**があるとうれしい」「**親子で楽しめるプログラム**をしてほしい」等から，A 大学に望む支援は，子育てに関する相談，心身の休息，知識の修得，教育的な学びの支援が示唆された．

Abstract

In this study, we aimed to clarify the desired childcare support of University A with human and material resources by the analysis of guardians' free descriptions. Questionnaire surveys of guardians using nurseries, children's halls, and childcare support centers in City B and City C adjacent to University A that trains public health nurses, midwives, nurses, physiotherapists, and nursery teachers were conducted. Furthermore, keywords related to childcare support were extracted from 334 free descriptions using a text mining software program. Next, sentiment analysis was performed, and positive and negative sentiments were aggregated. The identified sentiments included "it would be good to have **a place providing educational learning,**" "please provide more information as I would like to **use the postnatal care** of University A," "I'll be glad if there is **a place for consultation,**" and "please have **programs that both parents and children can enjoy.**" This suggested that the guardians desire to receive the following support from University A: consultation about childcare, mental and physical rest, knowledge acquisition, and support for educational learning.

キーワード：人的・物的資源，大学，保護者，望み，子育て支援

Key words: human and material resources, university, parents, expectations, childcare support

1. はじめに

子育て世代をめぐる社会は複雑化し，虐待，子育ての孤立等が社会的な問題として，取り上げられている．また，育児ストレスが高い場合は虐待につながる [1)]．その背景には，女性の社会進出，核家族化，地域とのつながりの希薄化等があげられる．子育て世代が，安定（安心）した子育てを送ることは社会を上げて取り組むべき課題である．現在，政府は子ども子育て新制度のもとに，子育て支援事業を展開している．地域では，NPO 法人，保育所，幼稚園や地域子育て支援センターなどの地域を中心とした子育て支援活動が行われている．地域における子育て支援の調査 [2)] において，母親は育児負担を軽減できる時間と場所，育児知識，技術に関する支援を求めており，病院・大学等の専門家が場所を提供し，子育て支援に関わることは，養育者

†1　東京家政大学健康科学部看護学科

†2　東京家政大学人文学部教育福祉学科

同士で話したいという場の提供と，専門家に気軽に相談したいというニーズに応える場になったことが報告されている．近年，4 年制大学や短期大学において，大学を子育て支援の拠点施設として活動している例も徐々に増えており，大学における子育て支援の調査では [3]，子育て支援を行っている大学は 62 校であり，大学のリソースとして教員の活用の促進について報告されている．大学で行う子育て支援は，行政支援よりも自由度があり，継続的な支援が難しい場合に対しても個別支援，グループアプローチ等，継続的な対応が可能であり，参加者の満足度が高く，地域貢献の視点と学生に対して学習効果と学習意欲を高めると，教育面においても一定の効果が報告されている [4]．このように，地域の子育て支援については，さまざまな形態や目的を持ち独自に展開しているのが現状である．

A 大学は，保健師，助産師，看護師，理学療法士，作業療法士，保育士等を養成する大学である．また，保育所，産後ケアサロン，訪問看護，放課後等デイサービスを附置施設にもっている．

子育てに対する思いと A 大学に期待する子育て支援について調査した [5] 結果では，子育てに対する思いとして，ポジティブな思いとネガティブな思いがあることが明らかになった．3 割の保護者は，ポジティブな思いとネガティブな思いの両方を同等に持っていた．ポジティブな思いは，幸せが最も多く，ネガティブな思いは，疲労感が最も多く，期待する支援は，反抗期・発達に関する知識の提供，体験に関する子育てカフェ，クッキングの開催が上位であった．「ポジティブ」「ネガティブ」「両方の思い」の 3 群が期待する支援 17 項目のどの支援を選んでいるか検討した結果，「ポジティブ」群は，つながり・体験等の交流のある支援を期待していた． 一方，ネガティブ群の多くは交流や体験を求めず，個別対応を取り入れたプログラムを必要としていることが示唆された．

本研究は，2019 年度の調査 [5] で量的分析によって示唆された A 大学に期待する支援の続報である．保護者の自由記述を分析することにより，選択式の質問項目にてみえてきた傾向を具体的かつ詳細な内容を質的に明らかにし，人的・物的資源をもつ A 大学に望む子育て支援を明らかにする．

2. 研究目的

本研究の目的は，保護者の自由記述の分析から，人的・物的資源をもつ A 大学に望む子育て支援を明らかにする．

3. 研究方法

1) 調査対象および調査期間

A 大学に隣接する B 市，C 市の保育所，児童館，子育て支援センターを利用する保護者に質問紙調査を行った．
調査期間は令和 1 年 12 月～令和 2 年 1 月である．

2) 調査内容

調査内容は， 属性（住まい，回答者の年齢，性別，子どもとの関係，子どもの年齢，子どもの人数），子育てへの思い，人的・物的資源をもつ A 大学に期待する支援である．「子育てへ思い」の自由記述では，A 大学に期待する支援を選択式の質問項目の次に自由記述を設けており，質問内容が A 大学に期待する支援と関連して回答するように設定した．

3) データ収集方法

A 大学に隣接する B 市，C 市の保育所，児童館，子育て支援センターに質問紙を設置し，利用する保護者が記載した後，郵送による回収を行った．

4) 分析方法

子育て支援に関する自由記述は，IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4 Japanese を用いて自由記述から子育てに関するキーワードを抽出した ．次に，A 大学に望む支援を明らかにするために，「感性 81_Sentiments」のパッケージを用いて感性分析を行った．

感性分析に用いたツールは，教育，医療，介護，マーケティング等の現場において，様々なテキストデータをできるだけ汎用的な視点で評価するために開発されたものである．たとえばマーケティングにおいてはどのような項目が消費者にとってポジティブなあるいはネガティブな印象に関連しているかを抽出するのに役立つソフトである．

感性分析は [6]，31 の構成要素からなる ポジティブ，42 の構成要素からなるネガティブ に加え，驚き，問い合わせ，要望，お願い，疑問， 激励，提案・勧告，勧誘を含めた 81 の要素を基に分類を行う分析である．1 人が記述した内容に複数の要素が含まれている場合は，複数にカテゴライズされる．

本研究は，2019 年度の調査 [5] の続報であり，前回の報告では「子育てへの思い」をポジティブとネガティブの視点にて分析したことから，類似の構成要素からなるポジティブとネガティブの感性を集計した．

5) 倫理的配慮

対象とする回答者に，依頼文と同意書の説明を文書にて行った．質問紙調査用紙には問い合わせ番号を記載し，調査後の同意取り消しについても不利益は一切生じない，匿名性が保持されることを文書にて十分に説明した．研究者所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得た（健 2019 - 3）．

4. 結果

1) 対象者の概要

郵送にて回収した 552 部の概要は，居住地 B 市 256 名（46%）C 市 283（51%），その他の地域 12 名（2%），子どもとの関係は，母親 521 名（94%），父親 29 名（5%），対象者の年齢は平均 35.8 歳±4.5 歳，子どもの年齢は 0 歳から 14 歳まで幅があり，平均 4.0 歳であった．子どもの数は平均 1.8 人であった．分析対象となる自由記述は，334 部であった．本研究の自由記述は 334 部を有効記載とし，対象にした．

2) 子育て支援に関するキーワード抽出

自由記述を内容ごとに出現したキーワードの抽出をした．抽出設定は，出現頻度上位 20 語とし，抽出品詞は名詞，動詞，形容詞とした．

子育て支援に望む支援に対する出現した上位 20 単語は，『思う』115，『ある』101，『子供』88，『ない』 67，『支援』48，『子育て』44，『いい』42，『多い』39，『子育て支援』39，『行く』37，『とても』36，『できる』31，『感じる』31，『いる』30，『参加』30，『プログラム』29，『もっと』26，『良い』25，『親』25，『仕事』25 であった．図 1 は，キーワード抽出によるレコード数である．

キーワードの＜思う＞は「赤ちゃんが出かける場があるといいと思う」「子供が前向きになれるプログラムがあるといいなと思う」など，＜ある＞は「相談できる場があると心強い」「子供食堂がある と良い」などの記述にみられた．

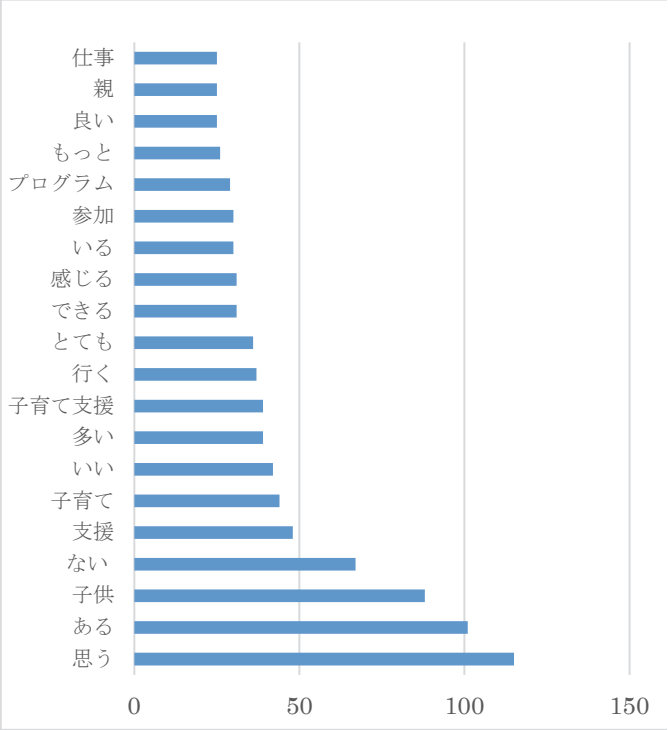

図 1：キーワード抽出によるレコード数

3) 感性分析

本研究では，ポジティブとネガティブの感性を集計した．図 2 は，感性分析によるカテゴリー別レコード数である．感性レコード数は，ポジティブ 147，ネガティブ 122 であった．

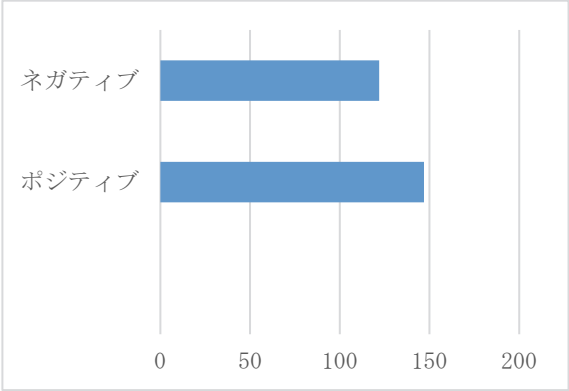

図 2：感性分析によるカテゴリー別レコード数

表 1 は，感性分析結果に対応する自由記述の代表的な文章の抜粋である．ポジティブは，「**教育的な学びを得られる場所**があると良い」「子供が 0 歳の時に A 大学の**産後ケアを利用**したいので情報をもっと発信してほしい」「**相談できる場**があるとうれしい」「A 大学のイベントがとても楽しい．**親子で楽しめるプログラム**をしてほしい」「A 大学に支援してもらうとうれしい．」「出来る限りたくさんの場を設けると育児が楽しくなる．」「一度 A 大学のイベントに参加してとても素晴らしく親子で楽しめた．」「A 大学に息子が行ったときにのびのびしていた．」であった．また，「ゆっくり」「のびのび」「リラックス」「肯定」という表現の記載もみられた．

ネガティブは，「妻への支援が A 大学にはあるので，子どもが小さかった時に，もっと早く知りたかった．」「居住地では，子どもの扱い方の講義があまりない．」「仕事がフルタイムなので自分の時間が持てない．」「居住地では，子どもと行ける場所はあるが，話しかけることもなくただの場所だけであった．」「仕事と子育ての両立がとても辛いときがある．」などの記述がみられた．

表 1：感性分析結果に対応する自由記述の抜粋

カテゴリー	自由記述より抜粋
ポジティブ	・教育的な学びを得られる場所があると良い. ・子供が 0 歳の時に A 大学の産後ケアを利用したいので情報をもっと発信してほしい. ・相談できる場があるとうれしい. ・A 大学のイベントがとても楽しい．親子で楽しめるプログラムをしてほしい. ・A 大学に支援してもらうとうれしい. ・出来る限りたくさんの場を設けると育児が楽しくなる. ・一度 A 大学のイベントに参加してとても素晴らしく親子で楽しめた. ・A 大学に息子が行ったときにのびのびしていた. ・A 大学の子育て施設に大人もゆっくり集中して参加出来たら，良い刺激になると思う. ・A 大学の保健師や助産師の方に相談出来たらホッとできると思います. ・母親がリラックスできる場があるとありがたい. ・親が肯定される支援を求めます. ・家庭の状況にあった（支援が必要な子どもがいる）支援があったら良いと思う.
ネガティブ	・妻への支援が A 大学にはあるので，子どもが小さかった時に，もっと早く知りたかった. ・居住地では，子どもの扱い方の講義があまりない. ・仕事がフルタイムなので自分の時間が持てない. ・居住地では，子どもと行ける場所はあるが，話しかけることもなくただの場所だけであった. ・仕事と子育ての両立がとても辛いときがある. ・子育ては孤独なのでつながりが持てる支援が欲しい. ・地域の子育て支援活動の雰囲気が苦手でためらっている.

5. 考察

子育てをしている状況の中で，期待する支援の内容が多く記述されており，キーワード抽出によって『思う』『ある』の 2 つの単語が高頻度でみられることから，保護者が子育て支援について多くのことを思考していることが窺える.

感性分析は，回答者の居住地が，A 大学に隣接する B 市，C 市の居住者が約半数ずつであったこと，552 名中 9 割は母親による回答であったこと，子どもの平均年齢が 4 歳であることから，幼児期の母親の感性であるといえる．感性分析により導かれたカテゴリーの結果は，各項目で＜ポジティブ＞，＜ネガティブ＞の順にレコード数が多い特徴がみられた．＜ポジティブ＞のレコード数は他のカテゴリーと比較して多く，＜ネガティブ＞は，やや＜ポジティブ＞より少ない程度であった．よって，これは子育て支援は，保護者にとって＜ポジティブ＞も＜ネガティブ＞も両方同じ程度に併せもっている重要な感性であるといえる.

＜ポジティブ＞，＜ネガティブ＞，＜ポジティブ・ネガティブ両方＞，それぞれの感性をもった保護者については前報[5)]でも述べたように，＜ポジティブ＞な内容につながる支援は，相談，産後ケア，教育的な学びといった心身の休息と知識の広がりを期待していた．＜ポジティブ＞な感性では，A 大学に実際に来たことのある保護者のポジティブな意見であった.

＜ネガティブ＞な感性では，保護者自身の個人が抱える問題，地域支援へのネガティブな思いであった．これらの感性を踏まえたうえで，望む支援につなげる必要がある．＜ポジティブ＞な感性に対しては，教育的なプロジェクト，知識を得ることへの期待がある一方，産後ケアや相談があることでポジティブな感性につながることが考えられる．さらに，＜ネガティブ＞な感性は，仕事，時間，疲労といった個別の問題から発生する感性であり，個別支援が必要と考える． 記述の中に，「ゆっくり」「のびのび」「リラックス」「肯定」との記載があり，身体の休息・解放について推測される表現であり，これらの身体的感覚がポジティブな内容，もしくはポジティブ（前向き）な子育てに影響することが考えらえる.

感性分析によるポジティブな内容「**教育的な学びを得ら**

れる場所があると良い」「子供が 0 歳の時に A 大学の**産後ケアを利用**したいので情報をもっと発信してほしい」「**相談できる場**があるとうれしい」「A 大学のイベントがとても楽しい．**親子で楽しめるプログラム**をしてほしい」等から，A 大学に望む支援は，子育てに関する相談，心身の休息，知識の修得，教育的な学びの支援であることが明らかになった．教育的な学びの場に関しては，前報 [5]の調査で述べたように，発達，栄養，事故，防災の知識支援を期待する回答が高かったことと関連して考えられる．産後ケアのような，相談の場や親子で相談して参加し，さらには身体の休息につながることはA大学に望む支援の重要な視点である．これらの支援が A 大学で継続されることが A 大学の子育て支援に求められていると考えられる．図 3 は，A 大学に求める支援の図である．

6. 結論

人的・物的資源をもつ A 大学に望む支援は，子育てに関する相談，知識の修得，教育的な学びの支援である．これらの支援が継続されることが，A 大学に近隣の子育て世代が安心して，さらにはポジティブ（前向き）な子育てにつながることが示唆された．

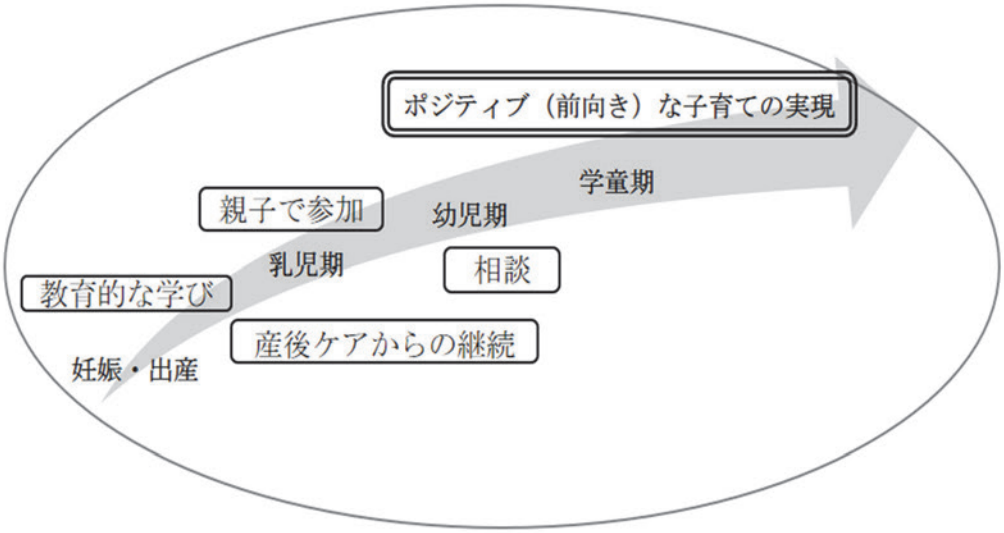

図 3：A 大学に望む支援

子育て支援を実施するにあたり，少人数参加型の子育て支援プログラム [7]では，少人数であること，1 対 1 で相談できる場があることが自分を認めて子育てへの自信につながるとしている．子育てに困難を抱える親へ支援では，始めは支援者と個々につながるところから始まり，支援者とつながることサークルや交流に参加することで不安の軽減 [8], 育児の対処能力を高める [9]ことに効果的であるといわれている．保育所，産後ケアサロン，訪問看護，放課後等デイサービスを附置施設にもつ A 大学は，人的・物的資源を有する大学であり，その資源を活用して多方面から種々の支援を多様な方法で提供することが可能である．はじめは知識を共有する形の支援から始まり，必要に応じて，個別支援つなげ，継続支援をすることや乳児から連続した子育て支援が可能である．

7. 研究の限界

本研究は，A 大学に対して保護者が望む支援であり，大学によって特性が異なるため，一般化には限界がある．しかし，幼児期の子どもを育てる母親の思いや期待する支援に関する一考察として役立つであろう．今後は，本研究の結果をもとに対象を広げ, 実践介入に至るまで検討したい．

謝辞

お忙しい中，協力していただきました対象の方にお礼申し上げます．本研究は，2019 年度東京家政大学総合研究プロジェクトの一部にて実施した．

参考文献

1) 中谷美奈子，中谷素之：母親の被害的認知が虐待的行為に及ぼす影響，発達心理学研究，Vol.17, No.2, pp. 148-158 (2006).
2) 黒田裕子，木村ちひろ：地域における子育て支援に関する文献検討，姫路大学看護学部紀要，Vol.11, pp. 21-30 (2019).
3) 大元千種，大靏香，渋田登美子，他：大学における地域支援に関する調査報告‐子育て支援と発達支援を中心として‐，筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報，vol.21, pp. 195-208 (2010).
4) 大林陽子，岡田由香，緒方京，他：大学を拠点とした子育て支援活動の活動報告と評価，愛知県立大学看護学部紀要，Vol.17, pp. 33-39 (2011).
5) 藤田藍津子，玄番千恵巳，今留忍，田中恵美子：大学の人的・物的資源を活用した子育て支援プログラムの検討 ：親の子育てへの思いと期待する支援，東京家政大学研究紀要，Vol.61, No.2, pp. 157-161 (2021).
6) 内田治，川嶋敦子，磯崎幸子：SPSS によるテキストマイニング入門，Vol4，オーム社 (2018).
7) 清水嘉子，関水しのぶ，遠藤俊子，他：母親の幸福感を高めるコースプログラムの実施と評価，日本助産学会誌，Vol.25, No.2, pp.157-161 (2011).
8) 小島康生，志澤美保：初めての子育てに困難を抱えた母親を対象とした支援プログラムの効果‐愛知県豊山町における実践‐，小児保健研究，Vol.73, No.2, pp. 347-353 (2014).
9) 岡田尚美，和泉比佐子，松原三智子，他：母親を育児サークルへ「つなげる」保健師の支援‐軽微な育児不安や孤立感をもつ母親への行為に焦点を当てて‐，日本地域看護学会誌，Vol.15, No.1, pp. 19-125 (2012).